

時 4.1  
1-6  
116



海士

明治十九年五月十九日 内務省附付

生... 日... 都の

西... 天... 乃...

惠... 乃... の... け...

房... 乃... 事... あり...

さ... 加... 由... 積... 度... の...

日本経済の発展

日本経済の発展は、戦後の高度成長期に著しく進んだ。これは、高度な技術力を背景に、高度な資本設備投資を遂げた結果である。特に、自動車産業や電子産業が代表的で、これらは日本の国際競争力を大幅に向上させた。

この成長は、政府の産業政策と企業の努力によって実現された。また、高度な教育水準も重要な要因であった。日本企業は、品質管理や顧客至上主義を掲げ、国際市場で高い評価を得た。

浦は活しんかたの心はなほおのこる

見し男女の心はなほおのこる

身はくは彼者ぞ相まらぬ心はなほおのこる

手はくは心はなほおのこる  
海士乃

心はくは心はなほおのこる

心はくは心はなほおのこる  
是を備ふ事

乃浦寺の心はなほおのこる

里はくは心はなほおのこる

心はくは心はなほおのこる

心はくは心はなほおのこる

心はくは心はなほおのこる

心はくは心はなほおのこる

心はくは心はなほおのこる

痛くもけりてはなほなほ

水鏡のまじりてはなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

是れはなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

なほなほなほなほなほ

子心也我々も用いませぬが

株一丸田舎のたしなめ

重なる人たすむる

人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる

重なる人たすむる



よるに面をくもるるを

書く面不肯の珠の中候

甲斐如能の寶を何とての鑑較よるも

くきおる三今の古居流

海乃後妹をくもる一高宗

會常乃后乃た勢給よるれ

甚流氏をくもる興福寺人

三乃たのくもる花原齋

江濱石を面不肯の玉二乃寶を

京の者一明珠をくもる龍宮

くもるくもるくもるくもる

浦の下子孫自賤一は海士をくもる





Handwritten musical notation on a five-line staff, starting with a treble clef and a key signature of one flat.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece.



志はよくあつたが、  
そのうち、  
あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。

あつた。あつた。  
あつた。あつた。  
あつた。あつた。



利劍を類する龍宮の中

にありける者たるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに

あはれおぼゆるに



人の世に... 梅... 鳴... 浪...

浪の... 鳴... 梅... 人...

梅... 浪... 鳴... 人...

人... 浪... 鳴... 梅... 人...

三三三三三日月のちぎるを  
 踏んでくたし裁ちあひぬ人  
 前へ君孝のこころ真箇  
 花をよきよきよきよきよ  
 三年 ぬれぬるあつた  
 ちぎるてむきよきよきよ

東回草花の葉は妙經の  
 三三三三三

三三三三三 <sup>上</sup> 三三三三三  
 三三三三三

三三三三三 <sup>後</sup> 三三三三三  
 人聲 三三三三三

三三三三三 <sup>上</sup> 三三三三三  
 三三三三三

三三三三三 <sup>後</sup> 三三三三三  
 三三三三三

三三三三三 <sup>上</sup> 三三三三三  
 南方の歌



持續志願上 深達罪福

お遍照拾十方 微妙淨法身具

相三十三妙 以八十種好 用莊嚴

法身 夫人所戴作龍神威慕

敬あゝ何の如く乃清經方那舞今

ては經の徳用少くく 天龍八部

人與非人皆見敬龍女如侍

神より寶ある志度寺とありし毎

年ハ儀類等々勤切に法解を唱

乃其地とありしに孝養の心あり

たゆみしなり

明治十九年二月八日  
翻刻御届  
同 年三月 刻成

出版人

石川縣平民  
近衛門  
金澤區横安町見龜

定價金五錢